

# 今後の展望を「はまかだ」

## 本年度1回目の未来図会議

陸前高田市

陸前高田市の保健・医療・福祉関係者らが一堂に会する市保健医療福祉未来図会議は12日、高田町の市コミュニティホールで開かれた。平成29年度1回目の活動となった今回

は、「未来図会議は何のために」というテーマで約30人の参加者が「はまかだ」7年目を迎えた未来図会議のこれからについて話し合った。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、自然と語り合う雰囲気づくりを目指す「はまかだ」を推進することを目指す。市が掲げる「ノー・マライゼーション」という言葉の「ノー」は「ない」という意味で、震災後から数えると、今回で通算77回目の開催となった。

菅野利尚部長が「これからの未来図会議、そして陸前高田市の健康づくり、地域づくりに向けて」市の被災地絆づくりアドバイザーやノー・マライゼーション大使などを務める岩室紳也さんが「未来図会議が目指してきたこと一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて」と題してそれぞれ講話。それを踏まえたうえで、参加者たちが未来図会議をどのように活用してきたかについて語り合った。

また、「信頼」「ネットワーク」「お互いさま」という3要素によって成り立つ「ソーシ

ヤル・キャピタル(絆)へきずな十ほだし」という考え方についても言及。健康面だけでなく町おこしや防災対策など多方面での効果が期待できることに触れ、「ソーシヤル・キャピタルをつくり上げるのが未来図会議。顔が見え、お互いがつながれば絆(きずな十ほだし)が育まれる」と締めくくった。



会議でははじめに、『はまかだ』に始まるノー・マライゼーションという言葉の「ノー」は「ない」という意味で、震災後から数えると、今回で通算77回目の開催となった。

菅野利尚部長が「これからの未来図会議、そして陸前高田市の健康づくり、地域づくりに向けて」市の被災地絆づくりアドバイザーやノー・マライゼーション大使などを務める岩室紳也さんが「未来図会議が目指してきたこと一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて」と題してそれぞれ講話。それを踏まえたうえで、参加者たちが未来図会議をどのように活用してきたかについて語り合った。

また、「信頼」「ネットワーク」「お互いさま」という3要素によって成り立つ「ソーシ

ヤル・キャピタル(絆)へきずな十ほだし」という考え方についても言及。健康面だけでなく町おこしや防災対策など多方面での効果が期待できることに触れ、「ソーシヤル・キャピタルをつくり上げるのが未来図会議。顔が見え、お互いがつながれば絆(きずな十ほだし)が育まれる」と締めくくった。

別写真あり

東海新報

2017.5.13